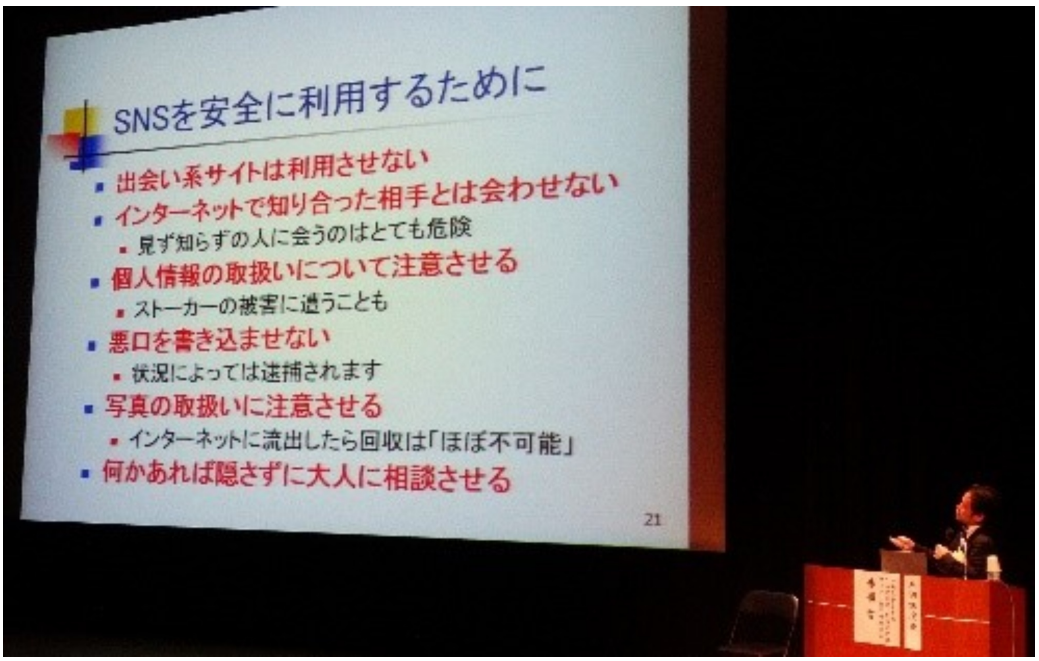
ＰＴＡ新聞 おきなわ

発　行
（一社）沖縄県ＰＴＡ連合会
〒900-0002
那覇市曙2-26-27
ＴＥＬ（098）867-3582
ＦＡＸ（098）867-0309
責任者　石川　謙

スマホおきなわルールづくりシンポジウム
～家庭で決めよう適切な使い方～



去る1月22日(日)浦添市のてだこホールにおいてスマホおきなわルールづくりシンポジウムが開催された。去年に引き続いてのものだが、今回から沖縄県ＰＴＡ連合会・沖縄県高等学校ＰＴＡ連合会の主催となっている。

沖縄県警察本部サイバー犯罪対策係長の赤嶺 智氏を講師として基調講演を行った後、保護者代表で宜野座美香さん（沖縄県ＰＴＡ連合会母親委員）・仲西春雅さん（沖縄県高等学校ＰＴＡ連合会会長）、教師代表で屋良 淳さん（沖縄県警察本部サポートセンター課長補佐）高校生代表で系数正哉君（沖縄工業高校）・多和田茉夏（普天間高校）、中学生代表で宮城正汰君（首里中学校）・椎本結衣さん（神森中学校）が登壇してシンポジウムが行われた。

講演のなかでは、出会い系サイトが減り代わって出会い系アプリが台頭していることやＷｉ-Ｆｉの利用でフィルタリングが難しくなっていること等の現状の説明があり、ネットでの言葉の暴力が相手が見えないために「陰湿になる」「繰り返す」などエスカレートしやすく、「心が折れた時」には自殺に向かう危険性が指摘された。また、安易な「いたずら写真の投稿」が世界中のクレームを呼び、企業を倒産に追い込む危険性がある等の指摘もあった。

投稿した写真に撮影した場所の情報がデータとして含まれている場合があり、閲覧者に居場所が特定され、危険が迫る可能性がある話もあった。

インターネットで知り合った相手とは会わないこと、何かあれば必ず大人に相談するということは特に強調して説明していた。

（末吉建作）

沖縄県ＰＴＡ連合会の常置委員会はどんな事をしているの？

母親委員会の活動を振り返って

長山勝美　県Ｐ副会長の熱意と努力により、沖縄県では十数年振りに復活した「母親委員会」は年に３回（６月・９月・２月）県内各地区より代表が集まり開催されました。
初回は「はじめまして！」の緊張の面持ちの中、自己紹介から始まり、これまでの経緯やこれからの取組みについて活動計画を立てました。２回目は、各地区での母親委員会（地区によっては家庭教育学級での活動も含め）での取組み報告を行い、スマホ問題など、どの地区も同様の悩みに共感し、また、他地区での取組みに感銘や気づきを得ることが出来、会議後に行われた交流会にてより一層の絆が深まりました。３回目では、九州ＰＴＡ母親代表委員会に参加した長山副会長からの報告に始まり、各地区からの活動報告、次年度の取組み・引き継ぎ事項について話し合いました。参加者からの全員一致の声で「年３回の開催は少ない！もっといろいろ情報交換がしたい」という意見がありました。再活動し始めた母親委員会、次年度以降からはもっと活発に更に内容を充実して開催されることを期待しています。ＰＴＡ活動で母代に参加することが出来て良かった！とても楽しい時間を過ごすことが出来ました。皆さんとの出会いに感謝です！長山副会長ありがとうございました！

母親委員会　副委員長　　下地イツ子

健全育成委員会

健全育成委員会では昨年度に引き続き「夜９時までには帰りましょう運動」に取り組みました。沖縄県社交飲食業生活衛生同業組合様に後援に入ってもらうかたちでポスターを増刷、同組合を通して各地区の飲食店等に配布しています。今後この運動の浸透状況を県全域でチェックし、次のアクションを起こしたいと思います。痛ましい事件や事故が続いています。皆の知恵と行動で子どもたちの環境と未来をよいものにしようではありませんか！

健全育成委員会 委員長　米須 清一郎

調査研究委員会

調査研究委員会では、教育に関する保護者の意識調査を行いました。全国等、他の地域との比較をする為、日本PTA全国協議会の行っている数多くのアンケートの問いの中から、家庭教育について、携帯やスマホの利用について、それぞれ10問のアンケートを沖縄県PTA研究大会宮古大会で実施しました。結果は全項目で良い方向の回答が大多数を占め、全体的に意識の高さが伺えました。全国と比較しても同等、もしくはそれ以上の結果でした。皆さん、ご協力ありがとうございました。

調査研究委員会　委員長　上原 博

家庭教育委員会

本年度の家庭教育委員会の活動状況を報告いたします。本年度は実際の活動としましては１件、来年度の計画について二件の立案を行いました。まず、実際の活動につきましては、２月の理事会に合わせ、最近、テレビやラジオのＣＭで話題の「家～なれ～運動　親の学び合いプログラム」を県Ｐ三役以下各役員の皆様に、体験していただきました。初めて受講した方も含め、今後の県内全体での更なる普及を促す為にも、参加した皆様、更なる口コミによる受講の推進をよろしくお願いします。また、来年度の計画としまして、「食育」をテーマに県内各小中学校に対して、食育に関するポスター募集、優秀作品の表彰とポスター配布を計画します。さらには食育に関する研修を計画しておりますので、理事の皆様、見分を深め食育を通して、家庭での親子の関わり合いの重要性を再認識していきましょう。

家庭教育委員会 副委員長　　中沼 豊

総務委員会

総務員会では、スマホやインターネットによるトラブルに会わない為に、スマホルール作り、講演会、シンポジウム等を開催しています。とても良い内容ですが、参加者が少ない。参加動員・アピール等が今後の課題でもあります。
私はスマホについての講演会等には積極的に参加していますが、毎回新しい良い発見がありますが、逆にトラブル形態が新しいものが出たりと日々急速に変わっていることを実感しております。その中で、学校での対応を先生方が行うのは非常に難しいのではないか、負担が大きいのではないか、といった意見が多くありました。その対応として、専門家や専門教育を受けた方へ協力してもらい、先生方の負担を抑えてはどうか。
スマホ110番等を作る、県教育委員会に県Ｐとして、スマホ110番を提案をしてはどうか。スマホ中心の委員会でしたが、後半は最近あった、バイク事故の件に話が移り、なぜ防げなかったか、必ずだれか大人が見ているはずなのに、声掛けできなかったのかと悔みます。今後の対応として、声掛けとの取り組みをもっと重要視する。その他いろいろな課題と対策について1年間話し合いました。

総務委員会　委員長　友利正治

木もれ陽　豊中ブランドで輝く生徒

豊見城市立豊見城中学校
校長　砂川芳之助

去る一月八日の豊見城中学校区成人式に出席した。晴れ着を身にまとった本校六四期生の成人が体育館に集い、宮城前校長を始め恩師の先生方も多数参加されていた。恩師の挨拶で「自慢の生徒だった」と話していた通り、和やかな雰囲気の中、私語のほとんど無い、厳粛さあり、感動ありの素晴らしい成人式だった。本校の新たな伝統の基礎を作り、「豊中ブランド」をスタートした生徒達だと聞いた。

豊見城中学校へ赴任したのは三年前。学年・全体集会時や授業などでの座る姿勢、聞く態度は驚くほど素晴らしい。更に生徒の一日は、朝のボランティア活動やあいさつ運動、元気な校歌斉唱でスタートする。部活動がボランティア活動を生徒会が挨拶運動をリードしている。その他の実践も含めて「豊中ブランド」として定着している。

このような豊中の新たな伝統「豊中ブランド」を一年生の頃から実践した生徒達が前年度、全日本少年軟式野球大会で「全国制覇」の偉業を成し遂げた。朝早く登校して「豊中ブランド」を積極的に実践してきた野球部員だ。毎日の活動で身についた根気強さ、継続する力、素直に実践する心など・・目に見えない大きな力が試合の大事な場面で発揮できていたと考える。

本年度は、女子バスケット部が三三年ぶり、男子卓球部が二三年ぶりの島尻地区優勝の実績を残した。学習面でも着実に伸びてきており、「豊中ブランドYes, we can 豊中プライドYes, I have 輝く豊中魂８」（生徒会テーマ）で輝く生徒・豊中の活躍が、創立七十周年を迎える平成二九年度もとても楽しみである。

木もれ陽　良さを見つけ伸ばす

八重瀬町立東風平中学校
校長　大城盛幸

人は様々な個性・特性を持って生まれてきて、学校や地域社会等で行われている活動と出会い、関わり合い、努力を重ねていく中で、その持てる才能を開花させ、人生を豊かに彩らせていくのでしょう。それは、スイミングスクールや空手道場、バレエ教室、三線・舞踊教室、珠算塾などの稽古ごとに始まる場合もあれば、学校教育の中の授業や部活動、ボランティア活動などで興味・関心を持ち、その後の関わりの中で没頭していく場合もあると思います。

本校でもスポーツ面の部活動をはじめ、吹奏楽部や美術部、パソコン同好会などの文化面の部活動も盛んに活動しています。生徒会活動の中でも各種委員会を中心に、ボランティア活動やハロウィンコンテスト、クリスマスライブなどの自主企画を通して、一人一人の個性発揮の場を提供しています。そして、何よりも学校生活の一番多い時間をしめる授業において、生徒は学ぶ過程の中から興味・関心を持ち、自分の良さを発揮できる夢や目標を見つけ、その実現に向けた進路学習やキャリア教育を通して自分の生き方在り方を追求しています。

特に、本校では地域を学び、生き方を考える総合的な学習の時間を利用し、３年生は地域の伝統芸能を学びます。踊りや三線、棒術、空手、太鼓、組踊、伝統工芸の指導・稽古が行われますが、その際、地域で専門に取り組んでいる講師の先生方の協力が不可欠です。その関わりを通して技術面はもちろんのことですが、それぞれの伝統芸能の持つ魅力や地域としてのアイデンティティーも一緒に伝えられます。このことが、東風平人（こちんだんちゅ）としての自信と誇りを持ち、豊かな人生を築くことに繋がっていくものと考えます。

子ども達の可能性は無限です。一人一人の子ども達には様々な可能性の芽が備わっています。そして、いつどこでその発芽の機会が訪れるかは分かりません。それは、今日の授業の中の分かった、できたという喜びの一瞬かもしれません。日々の部活動練習の中のコーチの一言かもしれません。あるいは、月１回の読み語りボランティアによる一冊の絵本との出会いかもしれません。そのためにも、学校教育は徳知体のバランスのとれた取組が強く求められると思います。そして、教師の関わりだけからではなく、地域社会の様々な人々との出会いを通して、その機会はより多くなるはずです。そのためにも地域人材の活用、関わりはもっと大事にしなければならないと思います。

第19回

裏方一番

未来をつくる若者たちの活動

今回ご紹介するのは、中頭地区北谷町の「ボランティアグループＨＯＭＥ」の活動です。20代の若者たち６人で結成され、４年前に活動を開始し、様々な理由で夜遊びを繰り返す子ども達の居場所づくりに奔走しています。

主な活動は、子ども達（主に中学生）の居場所づくり・立ち直り支援・生活支援（学習支援、食事提供、登校支援）、夜間街頭指導、地域清掃等です。代表の仲座大二さんは、「自分が悪さをしていた少年時代にしっかりと向き合ってくれる大人が側にいて欲しかったんです。自分自身がその大人になろうと決意したことが活動を始めるきっかけです。」と話してくださいました。

本会は、昨年から拠点として事務所を設けており、そこでは毎週火曜日と金曜日の19時から21時に「ＨＯＭＥ会」を実施しています。そこでは、ＤＶＤ鑑賞や受験勉強、ＳＮＳ勉強会など様々な活動を行うとのことでした。私がおじゃました会においては、「自分の未来と夢」がミーティングのテーマでした。そこには、参加している子ども達に将来就きたい仕事や夢を紙に書いてもらいながら、自分自身の体験、生い立ちを包み隠さず話す大人の姿がありました。その言葉を静かに聞き入る子ども達の態度を見ながら、「寄り添ってくれる大人が近くにいる」ことがきっと伝わる、この思いや一生懸命な姿が子ども達を導いてくれるにだと感銘を受けました。

この若者たちの活動は、子を持つ親として大人として、見習わなければならず支援していかなければならない活動の一つだと感じました。

（新垣　早苗）

（第二十一回）我が校区の文化・歴史遺産紹介

【上区獅子舞保存会】

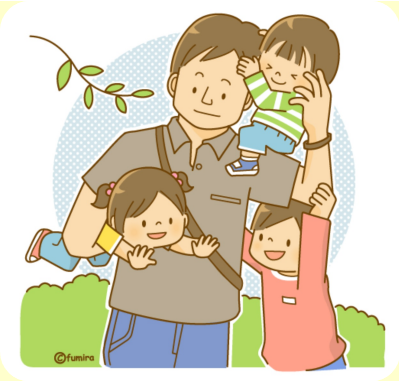
一八九二年、当時あった五つの集落を行政分離により、平良の添え村として下里添村とし、その際、村わけの祝いとして下里の主が、村の守護神である二頭の獅子を下里添村に贈り、その後、下里添村では感謝をこめて毎年旧暦八月十五日に豊年祭を催し、獅子舞をブンミャーウタキにて行う慣わしになりました。

その獅子舞が上区の獅子舞として現在に至っています。

下里添村は一九二一年に下里添上区と下里添下区に分字し、上区はその後上区部落、戦後は下北部落とも称するようになった。城辺町のころ各種補助事業が導入され、連続二十年間、農事奨励賞を受賞している等純農村地域です。近年ではさとうきびをはじめ、マンゴーや和牛生産が盛んである。昭和五十九年四月に上区獅子舞保存会は、獅子舞い地域の重要な伝統文化を継承し後世に伝えるため結成され、豊年会の他にも地域の祭りや郷友会、さらには他県や他の地区においても獅子舞を披露しており、現在まで約百回以上の演舞を行っています。

（宮古地区通信委員　伊波　孝子）

我が家の子育て ダイニング メッセージ



沖縄に住み始めて二十七年目、気がつくと元気いっぱい男の子四人のお母さんになっていました。

三人の息子は石垣島、末っ子は沖縄本島、どちらにしても親も親戚もいない、数名の友人しかいない沖縄での子育てスタートでした。

主人と一緒に仕事をしているので子供が幼い時は、仕事が終わるまで一緒に職場にいたこともありました。熱を出してもケガをしても預ける所がなく、一人で留守番させた事もありました。そのおかげで四人とも逞しく兄弟思いの子供たちに育ちました。

彼らが小さい時は、忙しい合間を縫って公園、海、そしてキャンプによく連れて行きました。また、部屋に布団を敷きつめて六人で〇〇〇ごっこ、主人が怪獣役をしたのを思い出します。

我が家で唯一今も続けているのは、家族全員で夕食を食べる事（もちろん会議、学校の用事等のある時は別です）家族で同じ食事を美味しく食べる。私達夫婦は、仕事から帰って来るのが遅いのですが、小さい時から一緒に食べて今日一日の話をするのが、親子、兄弟のコミュニケーションになっています。みんなが帰って来るのを待って六人で夕食（今は四人で）、学校の出来事、悩み、ニュースの話、恋話、勉強、クイズ etc、みんなが話すので長いと二時間以上になる事も、その中で子供たちの悩み、考え方を知り、親として教えられる事、大人としての意見など話ながら、私も多くのことを学んだと思います。

これが我が家の食育かもしれません。思う事を言い合い、他を認め合いながらそれなりに心が満たされ育ってくれているようです。大変ありがたい息子たちに感謝してます。

そして、この場をかりて、ＰＴＡ活動で出会った方々、たくさんの友人が出来た事に感謝の気持ちでいっぱいです、ありがとうございました。

那覇地区ＰＴＡ連合会
副会長　樋口　泰子

加入してよかった！みんなに勧めよう！

保護者の皆様の強い要望から生まれた

沖縄県 PTA 連合会推薦の ――

『小・中学生総合保障制度』

（こども総合保険）

AIU保険 Member of AIG

＝引受保険会社＝

ＡＩＵ損害保険株式会社 沖縄支店

=保障制度に対してのお問い合わせは=

◆小・中学生総合保障制度事務局◆

（あい保険工房内）

住所　：〒901-2126 浦添市宮城２－２４－２

ＴＥＬ：０９８－８７８－００２５

特集3号連載(下)

保護者が知るべき、ネットに関わる法律

ネットいじめパトロール隊　高宮城　修

あなたは、子どもにスマホを持たせる前にネットに関わる法律を教えていますか？

今回は、保護者が気軽に行ったスマホの写真撮影とネットへの投稿（公開）行為に端を発した小学6年女児からの相談事例をもとに考察します。

「先生、私の顔写真をいくつかのＬＩＮＥグループのメンバーが持っています。気味が悪いので助けてください」６年生女児からの相談である。なぜ、女児の知らないところで彼女の顔写真が拡散したのか。調べてみると、発端は授業参観で母親が、授業中の息子Ａ君をスマホで撮影、その写真にはＡ君と隣の席の女児も写っていた。その授業中の写真を保護者がＳＮＳに投稿（公開）した。後日Ａ君は、母親のスマホに記録された女児の顔写真を加工・編集し、自分のＬＩＮＥグループに投稿した。写真を共有したＬＩＮＥグループの一人がその写真を別のＬＩＮＥグループに投稿した。この行為が繰り返されるうちに、女児の顔写真と本名が記述され、拡散に発展した。自分が知らないうちに顔写真を拡散された女児は心を傷つけ、見えない不安に怯えている。Ｂ君の母親が何気なく行った授業参観での写真撮影、そしてＳＮＳへの投稿（公開）。母親の撮影行為は「肖像権の侵害」、違法行為に該当すると判断される。スマホは手軽に写真撮影や動画を撮影し、ＳＮＳに投稿（公開）ができる。保護者の安易な写真や動画の撮影・ネットへの投稿（公開）は、「肖像権」や「名誉毀損・プライバシーの侵害」などの違法行為となる恐れがあることを自覚し、スマホを子どもに使用させる前にこの法律を教えておかないと、子どもたちはスマホで勝手に他人や友達の写真・動画を撮影したり、ネットに投稿（公開）したり、罪の意識なく加害者にも被害者にも簡単になってしまう。「あなたはＰＴＡの懇親会などに参加したときに、相手の同意を得ずに、写真・動画を撮影し、ＳＮＳに投稿（公開）していませんか？」その姿を見ている子どもは、親と同じように相手の承諾を得ずに写真や動画を撮影していることが多い。

ある保護者対象の講演会で質問をした。「うざい」「お前フラー（バカ）か」この言葉をネットにコメントされた、または直接言われた。さて、あなたは「いじめ」だと思いますか？

この問いかけに「いじめだ」と判断した人は、参加者2割程度だった。この結果は、中学生に質問したときとほぼ同じ割合である。なぜ「いじめ」だと判断しなかったか、「普段言っているから、言われても傷つかないよ」どちらかというと「悪口・文句程度というのが適切」という意見だった。私も「いじめ」とは思わない。それどころか「犯罪」だ。「名誉毀損・侮辱罪」に該当する恐れがある。自分にとっては傷つかない感覚の言葉でも、相手が心を傷つければ、それは犯罪を犯したことになるのだ。この法律を小学校高学年から教えることは、ネット社会から子どもの「心」を守るという意味でも非常に重要だと実感している。

ネット・スマホは相手の顔が見えないため他人に攻撃的になる傾向がある。ネット・ＳＮＳの誹謗中傷は容赦なく子どもの心を破壊する。もしも、ネットに誹謗中傷コメントが書き込まれたら「あなたは軽い気持ちでコメントしたかもしれない、でもあなたのコメントは名誉毀損・侮辱罪に該当する恐れがある」と警告すること。感情のやり取りは控え法律で対応することが被害を防ぐことになる。ネット社会で子どもたちを守るためには、保護者自身が、「ネット・スマホの実態と対策」を学んでから、子どもにスマホを使用させるという意識の啓発と学べる環境をつくることが重要だ。

編集後記　いい先生論について耳にした。いい先生とはやさしく噛み砕いて教える先生ではないと言う。生徒に課題を与える。生徒はその課題に対して、どう解いたらいいか、いろいろな方向からアプローチをかけて考えていく、そうすると、いろいろ寄り道をして、いろんなことを知る。生徒はこの先生からいろんなこを教わったと勘違いする。感謝もする。究極は何も教えない先生で、生徒が成長すならそれもありだと言う。…考えさせる広報紙を目指してみようか。

広報委員：末吉 建作（那覇）新垣 早苗（中頭）奥間 由紀江（中頭）外間 隆史（島尻）
通信委員：仲間 里枝（国頭）伊波 孝子（宮古）鬚川 美穂（八重山）